

※ 網掛けのない部分が評価計画、網掛けの部分が評価結果を受けて記入する。

1 教育目標（目指す生徒像含む）

(1)基本目標：「人間尊重の精神」を基盤として、心身ともに健康で知・徳・体の調和のとれた、心豊かでたくましく、未来を拓く生徒を育成する。

(2)具体目標(具体的な児童生徒像など):◎長期目標として

◎たしかな学力をもつ生徒(知) ◎豊かな心をもつ生徒(徳) ◎強い体力・気力をもつ生徒(体)

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

「生徒が安心して力を発揮できる学校」

生徒一人一人の自らの良さや持てる力に気付かせ、それらを伸ばしていく指導をもとに確かな学び、豊かな心、健やかな体を育む教育活動の充実を図る。また、それらを通して時代の変化に対応して未来を拓く力の育成を目指す。

3 学校経営の方針（中期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

(1) 基本的な考え方

これからの共生社会を担う健全な生徒の育成を目指し、知・徳・体の調和のとれた教育を行う。そのため、正しい人間観を育てる教育を重視するとともに、社会性を高めるための諸活動を通じて、他者とよりよく生きる力を育成する。併せて、地域に開かれた信頼される学校づくりに努めるとともに、地域の教育力の活用にも努める。

(2) 基本方針

○①学業指導を充実し、生徒一人一人の自己実現に向けた主体的・協働的な学習の推進と、社会との関わりの中で自分の生き方を見つめ考えさせるキャリア教育の充実を図る。

②基礎的・基本的な知識・技能の確実な定着と思考力、判断力、表現力の育成に加え、学力調査等の活用と学習習慣の確立による、確かな学力を育む学習指導を推進する。GIGAスクール構想の実現を目指し、一人一台端末を授業はもとより日常的に活用できるよう取組を進める。

③生徒一人一人の人格を尊重し、自己有用感と思いやりの育成を積み重ね、困難を乗り越えるたくましさや夢や目標をもって社会に貢献しようとする豊かな心を育む教育を推進する。

④生涯にわたって健康で安全な潤いある生活が送れるよう、健康教育と安全教育の充実を図り、強い体力・気力を育む教育を推進する。新型コロナウイルス感染症等の予防について正しく理解し、適切な行動をとるなど、健康で安全な生活を送れるよう指導する。

⑤共生社会の実現を目指すため人権教育の充実とグローバルコミュニケーション能力の育成を図る。

⑥インクルーシブ教育システムの推進に向けた特別支援教育の充実を図る。

⑦道徳科の授業の充実に努め、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度の育成に組織的に取り組む。

⑧「部活動の方針」に基づいた、適切な部活動運営を図る。

⑨ 地域学校園小中一貫教育の推進と地域諸団体との連携、生徒の地域貢献活動の実践による、地域とともにある学校づくりを推進する。

⑩校内業務の適正化を図るなどして学校における働き方改革を推進するとともに、教育公務員としての使命と職責を自覚し、相互に高め合い学び合う協働的な同僚性の構築と、教職員の指導力と専門性の向上を目指す。

(3) 育てたい資質・能力

①小規模校の特性を生かし、多くの体験学習を通して自己有用感を育てる。

②コミュニケーション力を高め、生徒相互の多様な力を認め合い、共感的な人間関係を育てる。

③自己決定の場を設け、その実現に向けて粘り強く取り組むとともに、夢や目標をもって社会に貢献しようとする意欲と態度を育てる。

【晃陽地域学校園教育ビジョン】

「未来を見据え、地域と連携し、子どもが生き生きと学ぶ晃陽地域学校園」

4 教育課程編成の方針

教育基本法及び学校教育法その他の法令、学習指導要領に従い、宇都宮市立学校の管理運営に関する規則第7条に基づいた、「宇都宮市立小中学校の教育課程及びその編成の基準」を踏まえ、生徒の人間としての調和のとれた育成を目指し、地域や学校の実態及び生徒の心身の発達や特性等を十分考慮して、本校の教育目標を達成すべく適切な教育課程を編成するものとする。

さらに、中学校学習指導要領に示されている、よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創るという理念を学校と社会が共有し、社会と連携・協働しながら、未来の創り手となるために必要な資質・能力を育む「社会に開かれた教育課程」の実現を目指す。

加えて、保護者・地域への積極的な情報発信により、信頼される学校づくりに努め、学校と保護者・地域が協働して、生徒の能力の伸長を図る。

5 今年度の重点目標（短期的視点）※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

【学 校 運 営】 ・生徒・教職員・保護者・地域が各教育活動の目標及び成果・課題を共有し、教育効果のより一層の向上を図ることで、「生徒が安心して力を発揮できる学校」づくりを充実させる。

【学 習 指 導】 ○主体的・対話的で深い学びに向けた授業改善と生徒の学習習慣の育成

【児 童 生 徒 指 導】 ○自己有用感を育てる生徒指導と個別支援の充実

【健康（体力・保健・食・安全）】 ・自他ともに健康で安全な生活を送ろうとする実践力の育成

6 自己評価（評価項目のAは市共通、Bは学校独自を示す。）

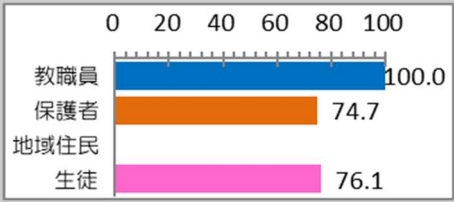
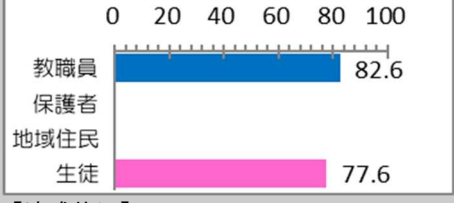
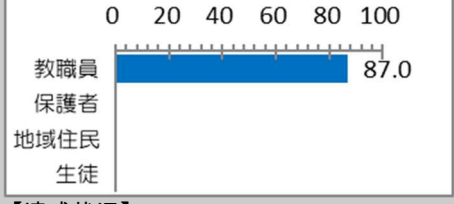
※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

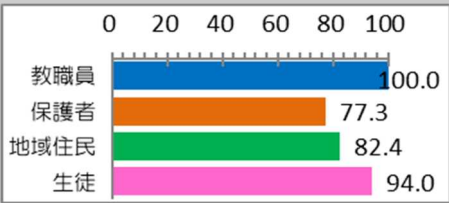
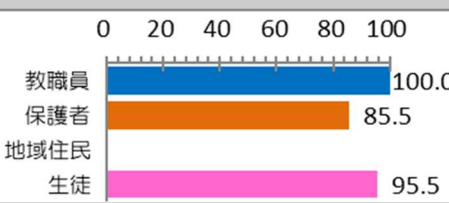
※「主な具体的な取組」の方向性には、A拡充 B継続 C縮小・廃止、を自己評価時に記入する。

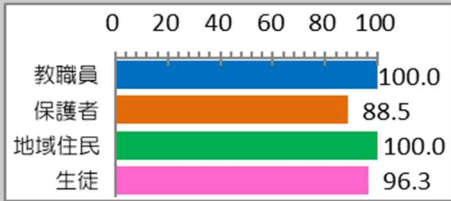
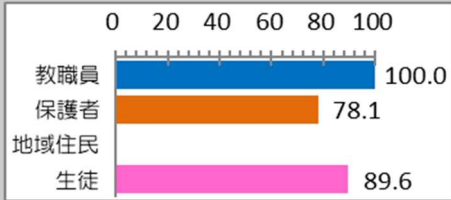
項目	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評価
目 指 す 生 徒 の 姿	A 1 生徒は、他者と協力したり、必要な情報を集めたりして考えるなど、主体的に学習に取り組んでいる。 【数値指標】 生徒・教職員の肯定的回答 85%以上	① キャリア教育と連携しながら、学習の動機付けを行っていく。 ② 振り返り、単元テスト、繰り返しの学習、パワーアップ学習等において、基礎的・基本的内容の定着を図り、自信をもたせる。 ③ 各種学力調査等の結果を活用し、より効果的な指導法の工夫に努め、学習意欲の向上を目指す。 ④ 「学び合い」「教え合い」を推進していく。	B	0 20 40 60 80 100 教職員 82.6 保護者 86.8 地域住民 生徒 84.3 【達成状況】 ・生徒、教職員ともに数値目標 85%以上を達成できなかった。 【次年度の方針】 ・引き続き、基礎基本的内容の定着を図るとともに、教師自身が ICT 機器を活用した学習指導の工夫に努めるなど、主体的に学ぶ力の育成に取り組んでいく。 ①個別最適な学び、主体的な学びを実現するための授業改善 ②宇都宮モデルに基づいた授業実践 ③各種学力調査等の結果を検証→改善→実践→評価

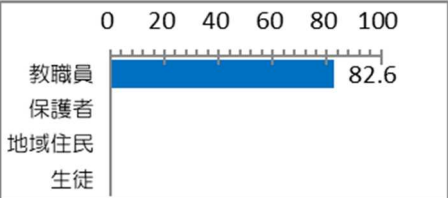
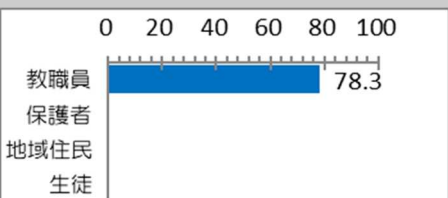
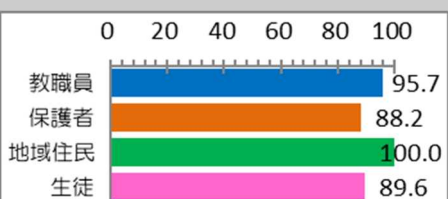
A 2 生徒は、思いやりの心をもっている。 【数値指標】 生徒・保護者、教職員の肯定的回答 85%以上	① 道徳の授業で、「考え、議論する道徳」を展開し、生徒の道徳性を育てる。 ② 授業や学校行事でのより良い集団作りを目指す。 ③ 生徒の良い行いなどを認め称賛する機会を多く作る。	0 20 40 60 80 100 <table><tr><td>教職員</td><td>95.7</td></tr><tr><td>保護者</td><td>88.6</td></tr><tr><td>地域住民</td><td>100.0</td></tr><tr><td>生徒</td><td>85.8</td></tr></table> 【達成状況】 ・生徒、保護者、教職員ともに数値目標 85%以上を達成できた。 【次年度の方針】 ・引き続き、道徳科の授業の充実を図るとともに、生徒一人一人を認め称賛していく。 ①「考え、議論する道徳科」の授業実践 ②晃陽スピリット賞の活用 ③学校行事や生徒会活動における「認め、励ます教育」の推進	教職員	95.7	保護者	88.6	地域住民	100.0	生徒	85.8
教職員	95.7									
保護者	88.6									
地域住民	100.0									
生徒	85.8									
A 3 生徒は、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。 【数値指標】 生徒・保護者・教職員の肯定的回答 80%以上	① 短期での実現可能な目標設定により、達成感・成就感を積み重ね、目標実現への自信を持たせる。 ② 学級経営や学校行事等で、目標を掲げ協力して取り組む中で、意義を見いださせる。 ③ 学習指導において、個別指導の充実を図るとともに自主学習の課題を与え、基礎基本の定着をとおして、目標に向かう姿勢を身に付けさせる。	0 20 40 60 80 100 <table><tr><td>教職員</td><td>78.3</td></tr><tr><td>保護者</td><td>85.5</td></tr><tr><td>地域住民</td><td>84.3</td></tr><tr><td>生徒</td><td>84.3</td></tr></table> 【達成状況】 ・生徒、保護者は、数値目標 80%以上を達成できたが、教職員は達成できなかった。 【次年度の方針】 ・自主学習をはじめ、個別指導の充実を十分に図り、生徒一人一人が自分に自信をもてるような指導を工夫していく。 ・主体的な活動になるよう、特別活動の充実を図り、一人一人が目標をもって、取り組むことができるよう支援していく。また、継続的に取り組める活動を取り入れていく。 ①キャリア教育との関連 ②大きな目標とスモールステップ目標を継続的、計画的に設定 ③目標設定と振り返りの積み重ね	教職員	78.3	保護者	85.5	地域住民	84.3	生徒	84.3
教職員	78.3									
保護者	85.5									
地域住民	84.3									
生徒	84.3									
A 4 生徒は、健康や安全に気を付けて生活している。 【数値指標】 生徒・保護者・教職員の肯定的回答 85%以上	① 健康診断や新体力テストの結果を生かし、自分の健康についての意識を高めさせる。 ② 自転車の安全な乗り方・交通マナーを常時指導で身に付けさせ、自転車事故ゼロを目指す。 ③ 「保健だより」「食育だより」等を活用し、保護者への啓発も図る。	0 20 40 60 80 100 <table><tr><td>教職員</td><td>91.3</td></tr><tr><td>保護者</td><td>88.5</td></tr><tr><td>地域住民</td><td>100.0</td></tr><tr><td>生徒</td><td>93.3</td></tr></table> 【達成状況】 ・生徒、保護者、教職員ともに数値目標 85%以上を達成できた。生徒、教職員は 90%を上回った。 【次年度の方針】 ・衛生指導や健康安全に関する指導を充実させ、その内容を各種たより等にて広く啓発していく。 ①健康診断や体力テストの結果活用 ②安全指導の充実 ③各種たよりを活用した啓発活動	教職員	91.3	保護者	88.5	地域住民	100.0	生徒	93.3
教職員	91.3									
保護者	88.5									
地域住民	100.0									
生徒	93.3									

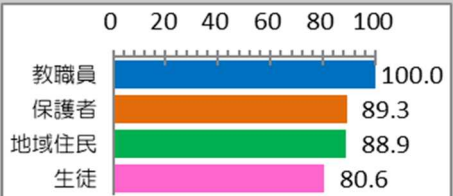
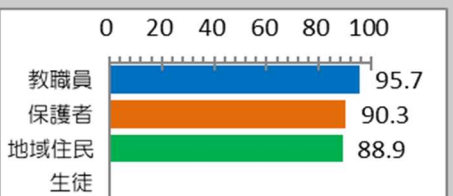
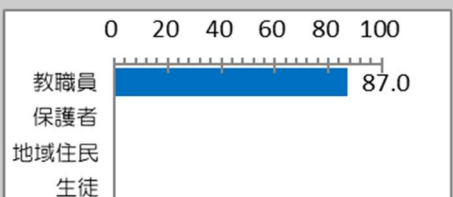
A 5 生徒は、自分のよさや成長を実感し、協力して生活をよりよくしようとしている。 【数値指標】 生徒、教職員の肯定的回答 85%以上	① 将来の目標を段階的に計画し、その目標を達成するための手段を考えながら粘り強く努力するよう、きめ細やかな指導を行っていく。 ② 授業や学校行事、生徒会活動などを通じて、協働しながら課題解決できる場の設定を行う。	0 20 40 60 80 100 教職員 保護者 地域住民 生徒 95.7 85.8 【達成状況】 ・生徒、教職員ともに数値目標 85%以上を達成できた。教職員は 95%を上回った。 【次年度の方針】 ・自他の個性やよさを認め合い、自分の将来の目標設定に向かって努力できるよう支援していく。 ・特別活動では、自他のよさを認め合い、協力できる活動になるよう努める。また、活動後には、振り返りを適切に行う。 ①キャリアパスポートの有効活用 ②目標設定と振り返りの充実 ③学校行事や生徒会活動における「認め、励ます教育」の推進
A 6 生徒は、英語を使ってコミュニケーションしている。 【数値指標】 生徒・教職員の肯定的回答 85%以上	① 英語の授業のウォーミングアップやペア学習などで、英語を使ったコミュニケーション活動を取り入れる。 ② A L T とのコミュニケーションの場面を多く取り入れ、生きた英語に触れる機会を充実する。	0 20 40 60 80 100 教職員 保護者 地域住民 生徒 95.7 76.9 【達成状況】 ・教職員は、数値目標 85%以上を達成できたが、生徒は達成できなかった。 【次年度の方針】 ・生きた英語に触れる機会を充実させる。 ①授業のウォーミングアップやペア学習等を活用したコミュニケーション活動の充実 ②A L T とふれ合う機会を創出 ③国際理解だよりの活用
A 7 生徒は、宇都宮の良さを知っている。 【数値指標】 生徒・保護者の肯定的回答 80%以上	① 社会科、総合的な学習の時間を中心とした授業の中で、宇都宮に関連した話題を取り上げ、意識を高める。 ② 市の資料などを活用し掲示板を作成し、宇都宮の良さに触れる機会を増やす。	0 20 40 60 80 100 教職員 保護者 地域住民 生徒 87.0 69.9 79.9 【達成状況】 ・生徒、保護者ともに数値目標 80%以上を達成できなかった。 【次年度の方針】 ・「宇都宮学」をはじめ、宇都宮のよさに触れる機会を増やすなど工夫していく。 ①「宇都宮学」の確実な履修 ②各種たよりを活用して学習の成果を発信

A 8 生徒は、デジタル機器や図書等を学習に活用している。 【数値指標】 生徒・教職員の肯定的回答 80%以上	① クロムブックの扱い方や活用方法について生徒に正しく教える。 ② I C T機器や図書を活用する機会を計画的に取り入れ、授業での思考力を育む活動や調べ学習、まとめの学習など職員間で共有しながら実践する。 ③ 授業の中で学校図書館司書を有効的に活用していく。	B  【達成状況】 ・教職員は数値目標 80%以上を達成し100%であったが、生徒は達成できなかった。 【次年度の方針】 ・授業やさまざまな活動で、意図的・計画的に I C T機器や図書等を活用する機会を取り入れていく。 ①各教科の年間指導計画に位置付け ②授業で積極的な活用 ③図書館司書や I C T支援員の有効活用
A 9 生徒は、「持続可能な社会」について、関心をもっている。 【数値指標】 生徒・教職員の肯定的回答 80%以上	① 教科・領域の学習の中で、環境問題や防災等を取り上げ、「持続可能な社会」に対する問題意識を持たせる。 ② ゴミの分別など、身近な実践を通して意義を理解させ、環境問題等への関心を高める。 ③ 具体的な活動例を示し、「持続可能な社会」「SDGs」という言葉を生徒職員に浸透させていく。	B  【達成状況】 ・教職員は数値目標 80%以上を達成できたが、生徒は達成できなかった。 【次年度の方針】 ・授業や専門委員会などで、SDGsとの関連を見出すなどして、「持続可能な社会」への関心を高めさせる。 ①教科・領域の学習内容との関連を明確化 ②生徒会活動との連携 ③身近な実践の積み重ね ④掲示物の工夫による啓発
A 10 教職員は、特別な支援を必要とする生徒の実態に応じて、適切な支援をしている。 【数値指標】 教職員の肯定的回答 85%以上	① 隔週で行われる生徒指導部会及び教育相談部会で情報交換を行い、支援を要する生徒に対して、教職員で共通理解を図り、迅速に対応する。 ② S C Mを中心に全校体制で取り組み、S CやMS、外部機関との連携を図る。	B  【達成状況】 ・数値目標 85%以上を達成できた。 【次年度の方針】 ・個に応じた対応を適切にできるよう、引き続き外部機関と連携を図りながら組織的に対応していく。 ①生徒指導部会や教育相談部会を活用した組織的対応の充実 ②個別の指導計画の有効活用 ③S Cや校内支援センター支援員、教育センター等との連携

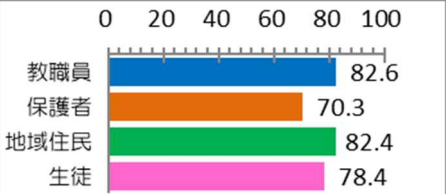
A11 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。 【数値指標】 生徒の肯定的回答 90%以上 保護者の肯定的回答 80%以上	① いじめの早期発見・対応のため、アンケートを定期的に行う。 ② 各種たよりやホームページ等に取り組み状況を公表する。 ③ 定期的にいじめ防止対策委員会を開催し、具体策を検討し学校全体で取り組む。	B  【達成状況】 ・生徒は数値目標 90%以上を達成できたが、保護者は数値目標 80%以上を達成できなかった。 【次年度の方針】 ・引き続きいじめは許されない行為であることを指導すると同時に、各種たよりやホームページなどを活用しながら保護者にも啓発していく。 ①計画的なアンケートの実施と早期発見と早期対応 ②生徒指導部会を中心とした組織的対応 ③いじめゼロ集会の充実 ④各種たより、ホームページ等を活用した情報発信と啓発
A12 教職員は、不登校を生まない学級経営を行っている。 【数値指標】 生徒・保護者・教職員の肯定的回答 85%以上	① 生活ノートや教育相談、生徒アンケートなどからのさまざまな情報を大切にし、生徒理解に努める。 ② ステップアップ教室や心の教室なども活用しながら、教室復帰を目指していく。	B  【達成状況】 ・生徒、保護者、教職員ともに数値目標 85%以上を達成できた。生徒と教職員は 95%を上回った。 【次年度の方針】 ・引き続き、職員間の連携を密に取りながら、教育相談部会も活用し、生徒一人一人に応じた対応を学校全体で考え、取組を充実させていく。 ①宮っ子ダイアリー、教育相談、アンケート等の有効活用 ②S Cや校内支援センター支援員、教育センター等との連携 ③家庭との連携 ④学業指導の充実

指 す 学 校 の 姿	A13 学校は、一人一人が大切にされ、活気があり、明るくいきいきとした雰囲気である。 【数値指標】 生徒・教職員の肯定的回答 90%以上 保護者・地域住民の肯定的回答 80%以上	① 主体性や連帯感を育てるため、生徒が活動し活躍できる機会を意図的に作り、自己有用感を持たせる。 ② 道徳の授業の充実を図り、心豊かな生徒の育成に努める。 ③ 来校者への挨拶を充実させ、活気がある学校づくりを推進する。	 【達成状況】 ・生徒、教職員は数値目標 90%以上を達成できた。また、保護者、地域住民も数値目標 80%以上を達成できた。 A 【次年度の方針】 ・行事や諸活動に取り組む際には、生徒の主体性を大切にし、充実した活動になるようはたらきかける。また、時と場に応じたあいさつ指導を継続して行う。 ・特別活動において、生徒主体で行う活動の充実を図り、生徒の活躍の場の機会を増やす。 ①生徒主体の活動を充実 ②特別活動や学校行事の充実 ③WEBQ-Uの有効活用
	A14 教職員は、分かる授業や生徒にきめ細かな指導を行い、学力向上を図っている。 【数値指標】 生徒の肯定的回答 85%以上 保護者の肯定的回答 80%以上	① 分かる楽しい授業を実践して生徒の意欲を高めていく。 ② T・T・習熟度学習やかがやきルームの効果的な活用をなどで、個に応じた指導を工夫し基礎基本の定着を図る。 ③ 生徒個々の意欲を引き出すために、努力した点、成果が見られた点を意図的に賞賛する。	 【達成状況】 ・生徒は数値目標 85%以上を達成できたが、保護者は数値目標 80%以上を達成できなかった。 B 【次年度の方針】 ・引き続き、生徒一人一人の学習状況に着目して、指導の工夫を継続していく。 ①宇都宮モデルに基づいた授業実践 ②各種学力調査等の結果を検証→改善→実践→評価 ③T・T・習熟度別学習やかがやきルームの効果的な活用

A 15 学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。 【数値指標】 教職員の肯定的回答 85%以上	① 学校目標や学校経営の方針を全職員が意識し、共通理解のもと教育活動に取り組む。 ② 専門性を有する学校スタッフの職務内容や活用方法を検討し周知しながら連携を深める。 ③ 管理職を中心に、風通しの良い職員関係を構築する。	B  【達成状況】 ・数値目標 85%以上を達成できなかった。 【次年度の方針】 ・個々の教職員が力を発揮できるようサポート体制、協働体制を充実させ、その基盤の上に部会等の組織的対応を推進していく。 ・分掌や委員会活動等の調整を図り、教職員一人一人が力を発揮しやすい職場づくりを目指す。 ①単学級編制を見据えた校務分掌 ②教育 DX 等による業務改善・連携 ③風通しの良い職場作り、OJT の日常化
A 16 勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。 【数値指標】 教職員の肯定的回答 80%以上	① 出退勤時間管理を通して、職員への声かけを行い、意識付けを図る。 ② 校務分掌や業務の見直しや削減を検討し、校務の効率化を図る。 ③ 部活動方針に基づき、部活動の適正な運営に努める。	B  【達成状況】 ・数値目標 80%以上を達成できなかった。 【次年度の方針】 ・業務改善や働き方改革の本質を確認し、教職員一人一人の意識改革を図る。 ・部活動改革、教育 DX 推進等により業務の効率化を図っていく。 ①日課の見直しによる会議の効率化 ②部活動時間の適正化 ③保護者の理解を深めるような啓発
A 17 学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。 【数値指標】 生徒・保護者・地域住民教職員の肯定的回答 80%以上	① 計画的に運営会議・全体会・各部会を開催し、9年間を見通した指導ができるように連携を図る。 ② あいさつ運動・冒険活動教室・中学校訪問など、小中学生が協働したり交流する合同行事の充実を図る。 ③ 活動状況を周知する方法を工夫し、意識の向上を図る。	A  【達成状況】 ・生徒、保護者、地域住民、教職員全てで数値目標 80%以上を達成できた。 【次年度の方針】 ・小中学生の協働や交流、連携を図りながら、合同行事の充実を図る。 次年度の【達成状況】における、数値目標を85%以上に上げる。 ①キャリア教育、指導の系統性と学びのつながりの強化 ②学校生活適応 ③教職員の相互理解、研究方法や研究体制の見直し

A18 学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている。 【数値指標】 生徒・保護者・地域住民教職員の肯定的回答 85%以上	① 保護者会や学校公開の活用、学校だよりなどの各種通知や学校ホームページでの情報発信の充実などを通して、開かれた学校づくりを推進する。 ② 地域協議会と連携し、情報の共有や学校運営参画機能の充実を図り、地域全体で学校をつくっていく体制を構築する。	B  【達成状況】 ・保護者、地域住民、教職員は数値目標 85% を達成できたが、生徒は達成できなかった。 【次年度の方針】 ・家庭や地域と協働・連携する取組を計画的に実施し、内容を充実させる。 ①地域未来塾，地域未来会議，あいさつ運動等での交流促進 ②「働く人に学ぶ」や社会体験学習（宮っ子チャレンジ）における連携 ③地域行事への積極的なボランティア参加を推奨 ④HP や各種たよりを活用した情報発信
A19 学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。 【数値指標】 保護者・地域住民・教職員の肯定的回答 85%以上	① 月1回の安全点検や日常の確認を通して、異常箇所の早期発見・修繕を行い、安全管理の徹底を図る。 ② 避難訓練や安全教育を通して、常に振り返りをしながら、危機管理マニュアルの見直しを検討する。	B  【達成状況】 ・保護者、地域住民、教職員ともに数値目標 85% 以上を達成できた。 【次年度の方針】 ・引き続き、取組を継続し、事故等の未然防止に努める。 ①避難訓練，交通安全教室等の安全指導の充実 ②安全点検の確実な実施と迅速な修繕 ③実用的な危機管理マニュアルの見直し
A20 コンピュータなどのデジタル機器やネットワークの点から、授業（授業準備も含む）を行うための準備ができている。 【数値指標】 教職員の肯定的回答 90%以上	①ICT 機器を利用して個別最適化された授業を展開する。 ②協働的な学びを支援する。 ③職員研修を行うことで、機器の取り扱いや生徒への指導ができるよう教職員の資質向上を図る。	B  【達成状況】 ・数値目標 90% 以上を達成できなかった。 【次年度の方針】 ・ICT 機器を活用した指導の充実を図るため、ICT 支援員による研修の機会の充実に努める。 ①ICT 機器を有効活用した個別最適な学び，主体的な学び，協働的な学びの実現 ②職員研修，授業研究の充実 ③ICT 支援員との協働による教材開発

本校の特色・課題等	B 1 生徒は、時と場に応じたあいさつをしている。 【数値指標】 生徒・地域住民・教職員の肯定的回答 90%以上	① 教職員・来客者・地域の人に対して、心をこめたあいさつができるように努めさせる。 ② 生徒会の取組を活性化し、晃陽地域学校園あいさつ運動を定期的実践する。 ③ あいさつを相手の顔を見てできるように共通指導していく。	0 20 40 60 80 100 教職員 保護者 地域住民 生徒 95.7 90.1 94.7 93.3 【達成状況】 ・生徒、地域住民、教職員ともに数値目標 90%以上を達成できた。 【次年度の方針】 ・語先後礼をはじめ、TPO をわきまえたあいさつ指導の充実に努める。 ・地域学校園と連携をしながら、あいさつ運動の更なる充実を目指すとともに、教師からの率先垂範を引き続き行っていく。 ①教師の率先垂範、普段の授業から ②語先後礼、TPO を意識したあいさつの励行 ③あいさつ運動の強化、スローガンの作成
	B 2 生徒は、きまりやマナーを守って、生活をしている。 【数値指標】 生徒・教職員の肯定的回答 90%以上	① 生活の一日の決まりやチャイム着席など授業時の約束事(準備・姿勢・返事)を実践させ、規律ある生活のリズムを身に付けさせる。 ② 道徳の授業などで、きまりやマナーを守ることの意義を理解させる。	0 20 40 60 80 100 教職員 保護者 地域住民 生徒 95.7 88.3 94.4 91.8 【達成状況】 ・生徒、教職員ともに数値目標 90%以上を達成できた。 【次年度の方針】 ・引き続ききまりやマナーを守る意義について指導していく。 ①生徒主体の校則の見直し ②学級活動や生徒会活動の充実 ③きまりを守る意義や納得解を理解させる指導の充実
	B 3 地域の様々な人々とのふれあいを大切にした活動をしている。 【数値指標】 生徒・保護者・地域住民の肯定的回答 80%以上	① 総合的な学習の時間に、富屋特別支援学校や高齢者福祉施設等での交流・体験活動を系統的に位置づけ、福祉教育の推進を図る。 ② 地域の事業所での職場体験や地域の講師によるお囃子の演奏など、地域の方との交流を通して、地域理解を深める。	0 20 40 60 80 100 教職員 保護者 地域住民 生徒 95.7 73.6 84.2 83.6 【達成状況】 ・生徒、地域住民は数値目標 80%以上を達成できたが、保護者は達成できなかった。 【次年度の方針】 ・地域の方々との交流の機会の充実を図るとともに、様々な体験活動を推進し、活動後の情報発信に努めていく。 ①地域の学校間や施設との交流促進 ②地域行事への生徒参加の奨励 ③情報発信の充実

B4 児童生徒は、何かをする時、見通しをもって計画的に進めたり、そのやり方などについて改善を図ったりしている。 【数値指標】 生徒・保護者・教職員の肯定的回答 80%以上	① 将来への見通しがもてるように、学校教育全般にわたってキャリア教育を推進する。 ② 地域の行事やボランティアへの積極的な参加を奨励し、地域に貢献している意識を体感させる。 ③ 小学校と連携し、キャリアパスポートの有効的な活用を図る。	B  【達成状況】 ・教職員は数値目標 80%以上を達成できたが、生徒、保護者は達成できなかった。 【次年度の方針】 ・将来への見通しがもてるように、学校教育全般にわたってキャリア教育を推進する。 ①計画的、系統的なキャリア教育の実践 ②キャリアパスポートの有効活用 ・地域とのつながりを意識させ、地域の行事やボランティア活動への興味・関心を高め積極的に参加するよう奨励に努める。
---	--	---

〔総合的な評価〕

【数値目標から】

全体的な結果をみると、目標とする数値指標と比較して、教職員は20指標項目中15項目（内：12項目は5pt以上）、生徒は19指標項目中12項目（内：4項目は5pt以上）、保護者は13項目中8項目（内：4項目は5pt以上）、地域住民は6指標項目中6項目全て（内：2項目は5pt以上）が上回っており、高評価であった。

特に、(A2)(A4)(A5)(A6)(A12)(A13)(A17)(A19)(B1)(B2)の10項目は数値目標を完全に達成することができた。

☆数値指標を上回った項目

【教職員】(A2)(A4)(A5)(A6)(A8)(A9)(A10)(A12)(A13)(A17)(A18)(A19)(B1)(B2)(B4)

【生徒】(A2)(A3)(A4)(A5)(A11)(A12)(A13)(A14)(A17)(B1)(B2)(B3)

【保護者】(A2)(A3)(A4)(A12)(A13)(A17)(A18)(A19)

【地域住民】(A13)(A17)(A18)(A19)(B1)(B3)

★数値目標を5pt以上下回った項目

【保護者】

A7「児童生徒は、宇都宮の良さを知っている。」(－10.1pt)

B3「地域の様々な人々とのふれあいを大切にした活動を推進している。」(－6.4pt)

B4「生徒は、何かをする時、見通しをもって計画的に進めたり、そのやり方などについて改善を図ったりしている。」(－9.7pt)

今年度は、教職員と生徒の結果を比較して10pt以上差があった項目が24項目中4項目に減っており、教職員が成果として捉えている内容を、生徒も実感できるように意図的にフィードバックした成果が表れている。

☆教職員と生徒の結果で10pt以上の差が解消された項目 (A2)(A3)(A12)(A13)(A17)(A18)

★教職員と生徒の結果で10%以上差があった項目

A6「児童生徒は、英語を使ってコミュニケーションしている。」教95.7%、生76.9% 差18.8pt

A8「児童生徒は、デジタル機器や図書等を学習に活用している。」教100%、生76.1% 差23.9pt

A14「教職員は、分かる授業や生徒にきめ細かな指導を行い、学力向上を図っている。」教100%、生89.6% 差10.4pt

B3「地域の様々な人々とのふれあいを大切にした活動を推進している。」教95.7%、生83.6% 差12.1pt

【前年度との比較から】

前年度と比較して、生徒は19項目中14項目（内：4項目は5pt以上）、保護者は17項目中9項目（内：3項目は5pt以上）が上回っており、指導の充実を図ってきた成果が表れる結果となった。反面で、教職員は、24項目中8項目（内：3項目は5pt以上）、地域住民は11指標項目中1項目が上回るにとどまり、前年度を下回る項目の方が多く、課題が残った。

☆前年度を上回った項目

【教職員】(A5)(A6)(A9)(A18)(A19)(B2)(B3)(B4)

【生徒】(A1)(A2)(A3)(A4)(A6)(A11)(A12)(A13)(A14)(A17)(B1)(B2)(B3)(B4)

【保護者】(A1) (A4) (A11) (A12) (A13) (A14) (A17) (A18) (A19)

【地域住民】(B1)

★前年度を5pt 以上下回った項目

【教職員】

A 3「児童生徒は、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。」90.5%⇒78.3% (12.2pt ↓)

A 7「児童生徒は、宇都宮の良さを知っている。」95.2%⇒87.0% (8.2pt ↓)

A 10「教職員は、特別な支援を必要とする児童生徒の実態に応じて、適切な支援をしている。」100%⇒87.0% (13.0pt ↓)

A 15「学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。」90.5%⇒82.6% (7.9pt ↓)

A 16「勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。」90.5%⇒78.3% (12.2pt ↓)

【保護者】

A 2「児童生徒は、思いやりの心をもっている。」95.4%⇒88.6% (6.8pt ↓)

A 7「児童生徒は、宇都宮の良さを知っている。」78.3%⇒69.9% (8.4pt ↓)

A 8「児童生徒は、デジタル機器や図書等を学習に活用している。」80.3%⇒74.7% (5.6pt ↓)

B 4「生徒は、何かをする時、見通しをもって計画的に進めたり、そのやり方などについて改善を図ったりしている。」
77.0%⇒70.3% (6.7pt ↓)

【地域住民】

A 11「教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。」91.7%⇒82.4% (9.3pt ↓)

A 18「学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている。」
100%⇒88.9% (11.1pt ↓)

B 2「児童生徒は、きまりやマナーを守って、生活をしている。」100%⇒94.4% (5.6pt ↓)

B 3「地域の様々な人々とのふれあいを大切に活動を進めている。」100%⇒84.2% (15.8pt ↓)

B 4「生徒は、何かをする時、見通しをもって計画的に進めたり、そのやり方などについて改善を図ったりしている。」
100%⇒82.4% (17.6pt ↓)

【児童生徒】

A 7「児童生徒は、宇都宮の良さを知っている。」86.3%⇒77.9% (8.4pt ↓)

7 学校関係者評価

【よかったこと】

○生徒の肯定的回答が前年より多数の項目で上回ったことは、先生方の指導の方向がまちがっていないことであり、次年度も継続を希望したい。

○地域未来会議は、生徒から直接に考えを聞いたのでよかった。

○地域未来会議で、子ども達と会議で交流ができた。また、生徒主体で決まり事を変えるなど、よい取組だと思う。

○A4, A11, A13, B1などで高い数値結果が出ており、中学生としての基礎的な生活習慣や心構えがたいへん良好な状態であると感じた。

○学校に訪問した際に、地域住民や生徒が積極的にあいさつを行っている。

○全体的に、生徒が真面目に取り組み、先生方もがんばっている様子で、その成果をうかがい知ることができる。

○先生方の日々の教育活動の成果かと思います。子ども達が成長できるよう、今後もよろしくお願いします。

【課題と思われること】

●A3について、生徒のイメージと教職員のイメージが違っていると考えられるので、スモールステップでのすり合わせを行なっていくと良いのではないかと考える。

●保護者の肯定的回答は概ね低い。どう発信し、どう理解していただくかが課題である。取組がよくても伝わっていないことが多いように思う。

●A15, A16が低い。「働き方」を考えないといけない。数値指標が100に近づかないといけない。

●先生方の超過勤務について、お忙しいとは思いますが、ワーク・ライフ・バランスに留意されるとよいと思います。

●学力向上、生徒の意識向上とやる気アップが課題。

●自由と責任を継続していけるか。また、格差が悪目立ちしなければよい。

●少子化に加えて、部活動の地域移行などもあり、徐々に「学校全体での行動」が縮小傾向かと思う。その流れの中で、社会性やコミュニケーション能力の低下した生徒を生まないように努めたい。

●A8で、保護者、生徒の達成状況が他と比べても低いように思う。この低さはICT機器のことでなく、図書の活用の低下なのかと思う。学校図書の活用もそうだが、市図書館の蔵書を、地区市民センターならネットで確実に取り寄せて読むことができるので、活用してほしい。地区市民センターから見ても、他地区に比べて図書の活用が低いように感じる。

●A4 生徒の安全面、健康面について、

①荷物が多い状況で長距離走行をしている様子を見ます。安全に登校できるよう配慮していただきたい。

②第2駐車場の整備を強く希望します。平らでないで、それをよけると危ないです。送迎を待つ生徒が、桜の木の下にいますので、そこで乗り降りしてしまいます。予算が通れば、屋根などもつけていただきたいです。

【意見や要望】

◇教育者が考える知・徳・体と、生徒が思う知・徳・体の定義を、生徒に自由文的な内容で考えていただくのはどうでしょうか。

◇新1年生が1クラスになるなど、本格的に「少人数教育」の時代となるが、「一人一人に目が届く」「一人一人に役割を与えて自己実現の機会を作れる」などのメリットもあると思うので、新たな視点での教育もお願いしたい。

◇不登校生徒への支援を引き続きお願いしたい。

◇今年度、熊が何度か出ましたが、子ども達へ対応等教えていただきたいです。

8 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

- ・昨年度の学校評価検討委員会の協議により目標値を昨年度より高めに設定し、その達成に向け全職員で協力して改善を進めてきた。その結果、教職員は20指標項目中15項目、生徒は19指標項目中12項目、保護者は13項目中8項目、地域住民は6指標項目中6項目全てで数値目標を上回っており、全体的には良好な結果であったと考える。反面、数値目標を完全にクリアできた項目が10項目にとどまったり、自由記述には、好意的な意見が多数を占める一方で厳しいご意見も見られたりした。期待と応援の表れとして捉え、教職員一同、また次年度、課題の改善に向け努力していきたい。
- ・前年度と比較して、生徒の肯定的回答が19項目中14項目で上昇しており、学校全体で教職員が取り組んできた指導の方向がまちがっていないこと、昨年度の課題を分析し全職員で解決策に取り組んだことが、生徒にフィードバックされ、生徒自身が成長を実感できている表れであるとする。次年度も、今年度の結果を各学年や各部会において、学校経営ビジョンや検討した内容を共有し、具体策を推進することで更なる教育活動の効果を高めていきたい。
- ・昨年度、教職員の回答と生徒・保護者の回答に大きな乖離があったが、本年度は(A2)(A12)(A13)(A17)(A18)で生徒の肯定的回答が上昇した。教職員が今年度の努力点として、日頃からの生徒との会話や日々の記録、定期的なアンケートにより生徒の様子を継続して観察したこと、自己肯定感や自己有用感が育めるような授業、行事の工夫を推進したことが、成果となって表れた結果であると考えられる。指導の方向が適切であったことや、具体的な取組の有効性が再確認できた。
- ・反面、教職員の回答と保護者との回答の乖離が、昨年度同様に見られた。生徒が安心して力を発揮できる学校づくりを目指し、学校で取り組んでいる内容の情報発信を一層強化していきたい。保護者にどのように発信をし、どのように理解を促進していくか、またどのように保護者も巻き込んで教育活動の効果をあげていくか、引き続き、次年度の課題である。
- ・(A10)(A11)(A12)(A13)(A14)といった、教職員が直接、生徒の指導にかかわっている項目に関しては、教職員の肯定的回答は100%を占め、生徒の肯定的回答は軒並み上昇している。全校体制で教職員が、生徒一人一人を大切に、生徒の実態に応じたきめ細やかな指導、小規模校の強みを生かした個別最適な指導を積み重ねてきた結果といえる。来年度以降も、「一人一人に目が届く」「一人一人に役割を与えて自己実現の機会を作れる」などのメリットを生かし、継続して「生徒が安心して力を発揮できる学校づくり」を目指し、指導の充実を図っていきたい。
- ・「(A15) 学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。」では、前年比-7.9ptであった。ここでも小規模校の強みを生かして、これまで以上に、担任だけが抱えることなく、学年の枠を越えて協力体制を整え、チーム昇陽で学校課題に取り組んでいく必要があると考える。
- ・「(A16) 勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。」に関しては、前年比-12.2ptと大きく落ち込んだ。来年度は、部活動の時間の見直しや会議の持ち方の工夫、朝の打合せ削減、教育DX推進等に取り組むとともに、業務改善や働き方改革の本質を確認し、教職員一人一人の意識改革を図っていきたい。
- 「(A21) 学校は、『小中一貫・地域学校園』の取組を行っている。」では、地域学校園で各部会の指標を定め、達成のための具体策や努力点を協議して重点化し、小中連携を深めることができた。また、生徒会を中心に行っている小中合同あいさつ運動、中学校教員による乗り入れ授業などの交流活動を促進することができた。小中一貫教育で実践している活動の宣伝、PR、啓発を推進し、積極的に情報発信していきたい。
- 「(A18) 学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている。」では、今年度も地域未来会議を開催し、「昇陽スピリットとは」について、地域住民と交流を深めることができた。学校関係者評価でも好評を得ているので、来年度も地域未来会議を拡充し、多くの生徒、地域協議会委員、PTAが関わるようもち方を工夫したい。